

令和6年度 学校評価実施報告書

学校名 (西院中 学校)

教育目標

校是 夢から志へ ～

志確かに“今より生きる！”

教育目標

- 広い視野をもち、多様な価値観を大切にし、自らの生き方や社会の在り方を創造していくことができる人間の育成 (キャリア教育)
- 常に学ぶ姿勢を大切にし、将来にわたって、豊かにたくましく生き抜くことができる人間の育成 (学力向上)
- 礼節を重んじ、自他の存在を尊重し、命を何よりも大切に生きていくことができる人間の育成 (道徳教育・人権教育)

年度末の最終評価

自己評価	教育目標の達成状況、次年度に向けた見直し
	<p>○校は「夢から志へ 志確かに“今より生きる”」学校教育目標「広い視野をもち、多様な価値観を大切にし、自らの生き方や社会の在り方を創造していくことができる人間の育成 (キャリア教育)、常に学ぶ姿勢を大切にし、将来にわたって、豊かにたくましく生き抜くことができる人間の育成 (学力向上)、礼節を重んじ、自他の存在を尊重し、命を何よりも大切に生きていくことができる人間の育成 (道徳教育・人権教育)」のもと、学校と地域が協働して、志を育て、自己有用感の高まりをめざして、自らの生き方や社会の在り方を創造する力を育てる教育を中心に学校運営ができた。学校評価保護者アンケートの中の「学校教育目標は生徒や保護者の願いになっている項目の肯定的回答意見が86%と高く、保護者、生徒への「校是」や「学校教育目標」の浸透が見られた。また、保護者アンケート中の「子どもは夢やあこがれ、目標を持っている」の項目の肯定的回答意見が71%で、生徒アンケート中の「将来の夢や仕事、中学校卒業後の進路について考えたり、学んだりする機会がある」の項目の肯定的回答意見が85%であった。次年度も、一小一中の強みを生かして、学校教育目標の繋がりをさらに深め、西院小中一貫行動目標及び学校教育目標達成を図っていく。</p> <p>○学校教育目標についての教職員の意見や反省をカリキュラムマネジメントの視点から、PDCAサイクルにより意見を集約して、来年度の各分掌方針を作成する。また、今年度における教育活動の振り返りを行い、新年度に向けた体制作りをする。</p>

学校関係者評価	学校関係者による意見・支援策
	<p>○小学校の「夢」から中学校の「志」を大切にする連続した教育の様子を西院中だよりやホームページ等を通して発信することで、地域の人たちの理解も広がってきてている。そのことが、地域の「学校のために地域として何かできないか」という学校教育に対する意識の高まりや好意的・協力的な姿勢に繋がっていると感じる。</p> <p>○小学校と中学校が連携して小中一貫教育を行えていることは、地域としても非常に心強く感じており、西院の子どもたちを9年間の学びや育ちの連続性を大切にして育ててもらっている</p>

ることに感謝している。
○今後も、西院のまちの学校として、地域とも協働し、西院の子どもたちを健全にそしてたくましく育てていってほしい。

学校関係者評価の評価日・評価者

	評価日	評価者
中間評価	令和6年11月7日（木）	学校運営協議会
最終評価	令和7年2月26日（火）	学校運営協議会

（1）「確かな学力」の育成に向けて 『学力向上プラン』

重点目標

- すべての取組が“生き方”にはたらく教育（学習）活動の推進
- 求められる資質と能力を確かに自分のものにできる授業の創造
- 主体的で対話的な学びを引き出し、深い学びに導くことができる授業の創造
- 生徒自らが課題を設定し、解決のために学び深めていくことができる探究活動の推進
- 伝え合い、認め合い、正しく批判し合う、言語活動の推進

具体的な取組

- ・全ての教育活動でキャリア教育の視点を持ち、小中一貫教育による9年間を見通したカリキュラムマネジメントの推進 → 小中合同の研修や打合せにより探究活動推進校としての取組の推進を含め総合的な学習の時間等で将来にわたって必要となる資質・能力が培えるような授業の創造及び改善
- ・教職員のカリキュラムマネジメントに関する研修の充実 → 評価（C）・改善（A）段階の一層の充実（小中合同研修で実施）
- ・G I G Aスクール構想の下、「情報活用能力」育てるためにICT機器を活用した学習場面を積極的に設定し、これまでの教育実践とICT活用を適切に組み合わせた協働的な学びと個別最適な学びの実現
- ・学習習慣が十分身についていない生徒や家庭に背景を持つ生徒に向け、授業と家庭学習を関連づけた課題の工夫など、基礎・基本の定着を大切にした家庭学習の習慣化→最後までその子の教育と育ちをあきらめない取組
- ・小中合同研修で、学校評価や学力や生活データを分析・検証、小中9年間のつながりある指導を研究
- ・自習室や補充学習など効果的に利用できる環境を整備し、学習が定着していない生徒を中心に効果的な取組（みらスタ等）や指導について研究

（取組結果を検証する）各種指標

- ・全国学力・学習状況調査、ジョイントプログラム、学習確認プログラム、定期テスト等の結果
- ・学年ごとに行うポスター発表の取組
- ・生徒アンケートおよび学校評価アンケート（保護者・教職員）における学力・学習状況に関

わる項目結果

- ・朝読書や読み聞かせの実態
- ・授業参観アンケート回答、個人懇談会等の保護者の意見

中間評価

各種指標結果

(全国学力・学習状況調査)

- 国語の平均正答率については、全国平均より約6ポイント、府平均より5ポイント上回り、非常に高い数値である。分類ごとに見ても、「思考力・判断力・表現力」「知識及び技能」のすべてにおいて、全国平均、府平均を大きく上回っている。
- 数学の平均正答率については全国平均より7.5ポイント、府平均より7ポイント上回り、非常に高い数値である。分類ごとに見ても、「思考力・判断力・表現力」「知識及び技能」ほぼすべてにおいて、全国平均、府平均より大きく上回っている。

(3年1s t)

- 「総合」は、全市平均を上回る(3.8ポイント)結果である。すべての教科が、全市平均を上回っている。その中で、特に数学(7.0ポイント)と英語(4.3ポイント)が顕著である。その他の教科でも、国語(2.4ポイント)社会(2.3ポイント)理科(2.6ポイント)上回っている。今後、進路も関係していくので、現在の学年の学力を維持しつつ、引き続き学習面に力を入れていく。

(2年Pre 1)

- 「総合」は、全市平均を上回る(2.2ポイント)。1年次よりも上回り幅は大きくなっている。すべての教科で全市平均を上回っている。その中で、特に国語(5.3ポイント)が顕著である。社会(0.7ポイント)、数学(2.5ポイント)、理科(1.2ポイント)、英語(2.2)ポイント全市平均より上回っている。しかし、社会、理科については、ほぼ全市平均ぐらいなので、これから底上げが大切である。また、例年2年生で学力の低下する傾向があるので、引き続き学習面に力を入れていく。

(1年ジョイント)

- 「総合」は、全市平均を下回っている。(0.7ポイント)。「算数」は、0.9ポイント全市平均を上回っているが、国語は、2.2ポイント下回っている。例年、入学時に行われるジョイントプログラムは、低い数値からスタートしており、学習規律や教科指導によって、現在の2年生、3年生も向上しているので、今後も継続してしていく。

自己評価

分析(成果と課題)

(成 果)

- 生徒質問紙の「学級との生徒との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができますか」の項目では、肯定的回答意見が89%であった。
- 生徒質問紙の「あなたの学級では、学級生活をよりよくするために学級活動で話し合い、互いの意見の良さを生かして解決方法を決めていますか」の項目では、肯定的回答意見が89%であった。
- 保護者アンケートの「学校教育目標は生徒や保護者の願いになっている」の項目では、肯定的な回答意見が88%であった。また、「子どもは学校での授業を自分にとって大

- 切なものと感じている」の項目では、肯定的な回答意見が83%であった。
- 育成すべき生徒の資質・能力の一つとして「伝え合う力」を掲げ、「学力の向上と深化」に向けて“伝え合い、高め合い、深め合う言語活動の推進”、“生徒自らが課題を見つけ、追究していくことができる探究活動の推進”を目指している。従来あった小中連携や探究活動推進校の指定等これまでの校外との関わりの中で実施してきた取組とコロナ渦より、その取組に代わる形として、1年生では、キャリア教育の足がかりとなるよう「私たちの地域・社会を見つめ行動しよう」をテーマに調べ学習とフィールドワークを行った。2年生では、一人一人が課題設定を行い、その解決に向けて、自ら考え、自ら取り組んでいく探究学習に取り組んでいる。3年生は、2年生から取り組んできた探究学習のポスターセッションの本発表を実施した。その2つの取組を融合し、実施していく。また、小学生にも参加してもらう方向で計画を進めている。
- 特別の教科「道徳」の授業研究と評価研究を進めていく中で、授業改善や評価方法を検討していく。道徳の授業で見取ることができた一人一人の成長や変容を表記した。保護者からも一定の評価を得ている。

(課題)

- 生徒、教職員アンケートからも、「学習の内容がわかるまで粘り強く学習している」の項目では、生徒アンケート68%、教職員アンケート78%、「自分で家庭学習をしている」「子どもに家庭学習の必要性について指導できている」の項目では、63%、89%が、肯定的な回答をしている。生徒と教職員の意識のずれが感じ取れる。アンケート結果からも昨年度より若干肯定的な回答は増えている。しかし、まだまだ落ち着いた学習環境の構築、家庭学習等の定着が課題である。
- 生徒質問紙の結果からも見られる英語に対する苦手意識の克服と興味・関心・意欲の向上
- さらなる言語活動の充実や探究活動を推進していくために、カリキュラムマネジメントを通じて、子どもたちにどのような資質・能力を育むのかを明確にし、それを育む上で効果的な学習内容や活動を組み立て、教科横断的な視点で、各教科の学びと総合的な学習の時間や特別活動と関連付けていく。そのための研修会や教科会の充実
- 特別の教科「道徳」の授業研究と評価研究の継続

分析を踏まえた取組の改善

- 特に英語科の学力向上と定着へ向けた、さらなる取組や授業改善へ向けた研究。(英語授業におけるTT授業(全学年)等)
- 学校評価を利用したP(計画)・D(実行)・C(評価)・A(改善)サイクルを生かし、カリキュラムマネジメントを通じて本校の生徒につけたい資質・能力を明確にし、それを育む上で効果的な学習内容や活動を組み立て、教科横断的な視点で、各教科等における学びを関連づける。

(最終評価に向けた)取組の改善を検証する各種指標

- 学習確認プログラム(10/8(全学年)・1/23(1、2年))の結果
- 学習指導に関わる年度末反省
- 12月実施の保護者・生徒・教職員アンケート

学校 関 係 者 評 価	学校関係者による意見・支援策
	<ul style="list-style-type: none"> ○小中で共通した評価項目を設定していただけたので、9年間の学び、育ちの変容を経年で検証できるのは、とても意義深いものであり、地域としても「子どもたちのために、何が必要か、何ができるか」を考える参考になった。 ○「自主企画・自主運営」での生徒活動の中で、たくましく育っていると感じている。今後も、生きていくために本当に必要な学力をつけていってほしいと考えている。 ○学力の格差を補う取組として、学校現場では、限られた時間や人材のやりくりに苦慮されているように感じる。地域としても、できる限りの協力をていきたい。

最終評価

(中間評価時に設定した) 各種指標結果

<学習確認プログラムより>

(1年 Basic)

- ・Basic1 総合では、全市平均を2.2ポイント下回っている。国語と数学は、全市平均を上回っているが、ほぼ全市平均ぐらいである。全市平均を下回っているのは、社会、理科、英語である。
- ・Basic2 総合では、全市平均を約2.4ポイント下回っている。すべての教科で全市平均を下回っている結果となっている。今後全体の底上げが、本校の課題である。

(2年 Pre)

- ・Pre2では、総合・国語・数学・英語が、全市平均を上回っている。本校では、例年2年で低下する傾向があるが、低下することなく全市水準以上の学力が維持できている。この力を探究的学習につなげていくことで「主体的・対話的で深い学び」に生かしていく。
- ・Pre3でも、総合・国語・社会・英語が、全市平均を上回っている。特に国語で約3.5ポイント全市平均より上回っている。課題は、全学年そうであるが、理科である。

(3年 2nd)

- ・2nd 総合は、全市平均を4.4ポイント上回っている。すべての教科において、全市平均を上回っている。特に、数学に関しては6.2ポイント、英語は5.7ポイント上回っている。他の教科においても、国語4ポイント、社会0.6ポイント、理科3.7ポイント全市平均を上回っており、低位層の底上げも見られる。

<後期学校評価保護者アンケート・生徒アンケートより>

- ・保護者アンケートの「子どもは夢やあこがれ、目標を持っている」の項目では、肯定的な回答意見が71%で、前期評価と近い数値となっている。生徒アンケートの中の「将来の夢や仕事、中学校卒業後の進路について考えたり、学んだりする機会がある」の項目の肯定的な回答意見が85%で、前期評価と近い数値となっている。学校教育目標にも掲げているキャリア教育や学力向上の面での成果が見られた。
- ・保護者アンケートの「学校教育目標は生徒や保護者の願いになっている」の項目では、肯定的な回答意見が86%と高い数値であった。また、「子どもは学校での授業を自分にとって大切なものを感じている」の項目では、肯定的な回答意見が80%と高い数値であった。前期に比べて、5%低くなっているが、高い数値は維持している。保護者が、子どもの学習意欲や態度について、十分に満足をしていることがうかがえる。
- ・生徒アンケートの「生徒会活動や部活動等、学校での様々な活動において「自主企画・自主運営」」

に取り組んでいる」の項目では、前期に比べてわずかではあるが、上昇した。コロナ渦も明けて、教育活動、学校行事、生徒会行事等も行うようになり、生徒たちが自分の意見や考えを発表したり、交流したりする活動を多く取り入れることができたことが、数値をあげることができた要因となつたと思われる。

- ・保護者アンケートの「子どもは、わかるまで粘り強く学習している」の項目では、肯定的な回答意見が64%であった。高い数値とはいえないが、子どもが学習している姿が目に見えてきている。しかし、保護者の目から見れば、子どもたちの学習態度に物足りなさを感じているようである。
- ・生徒アンケートの「学習の内容がわかるまで粘り強く学習している」の項目では、肯定的な回答意見が66%であった。自己実現に向けて、もう少し学習に意欲的に取り組んでくれることに期待している。

<年度末反省より>

- ・あらゆる場面で、GIGA 端末を利用することで、より学習効率を上げることができると考えている。
- ・日々の授業の中で、各教科等の目標の実現のために、「主体的に学習に取り組む力」、「伝え合う力」の育成を図り、思考力・判断力・表現力等を伸ばせるよう発問・課題の提示等を工夫する。また生徒同士が互いの意見を深め合ったりする活動の一つであるポスター発表を通して探究学習につなげていくことが重要である。

自己評価	分析 (成果と課題)、重点目標の達成状況、次年度の課題
	(成果) <ul style="list-style-type: none">・学習確認プログラムの結果を見ると、2、3年生は、平均以上の結果が出ている。・1年生は、入学時に他校へ進学した割合が高い影響もあり、他学年と比べると学力が高いとは言えなかつたが、この1年間で全市平均に近づいてきた。自ら考え、自ら取り組んでいく探究学習も順調に進んでいる。これらをベースに「主体的・対話的で深い学び」の視点に立った授業改善につなげていく。・2年生は、総合で全市平均より上回ってきている。・3年生は、総合的には安定した学力を有している。すべての教科において、全市平均を上回っているか平均ぐらいである。これは、日々の授業の中で、きめ細かな手立てをしてきたことが結果に表れていると考えられる。・ポスター発表会等小中連携を含む校外との関わりの中での活動については、今年度ほぼ予定通り実施できた。今後、小中9年間での学びを考える上で、学力向上に向けて小中連携をさらに進めていく。 (課題) <ul style="list-style-type: none">・教科によって二極化が見られる学年・教科がある。低位層の生徒は、日々の授業の様子や学習意欲の面で、厳しい状況が見られる。来年度に向けて、研究部を中心に低位層の基礎・基本の定着を目指した授業改善や指導力の向上に向けての方策を学校全体考えていく必要がある。・英語に関しては、中学校の教員が、週1で、小学校の英語学習にもゲストティーチャーとして参画しているので、その取組を話す・聞く習慣は授業の中でついてきているが、書く力や読解力に課題が多く見られる。・探究活動の中で、自分の意見や考えを述べたり、自主的に活動に取り組んだりすることに苦手意識を持つ生徒がいる。

	<p>分析を踏まえた取組の改善</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学校評価保護者アンケートや生徒アンケート、学校評価等の結果に基づいた PDCA サイクルを生かしたカリキュラムを開発し、教科等横断的な視点で、総合的な学習の時間の探究学習と各教科等の学びを関連付けることで質の高い学びの実現に向けた授業改善や指導力の向上を図っていく。 ・学習活動の形態を工夫したり、ICT を授業の中で、効果的に活用することで、生徒の主体的な学びを推進する。 ・低位層の基礎・基本の定着を目指した授業改善や指導力の向上を図る。また、読み取る力を伸ばすための授業改善を行う。また、書く力（表現力）を伸ばしていくために表現活動に力を入れた学習を展開する。
学校 関 係 者 評 価	<p>学校関係者による意見・支援策</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学校教育活動は、コロナ前にはほぼ戻っている中、日々の見守りの中で、元気に登校する生徒の姿や活動の様子を見ていると、たくましく成長しているのが感じられた。 ・学校に行きにくい生徒に対して、タブレット端末等、ICT を有効活用することで、保護者や生徒の学習に対する不安を少しでも解消できているのはいいことである。今後、さらにスマートで効率のいい活用の仕方を考え、学びをさらに探究していくような実践を進めていってほしい。今年度同様に、地域として学校教育活動への協力していきたい。学習支援や総合育成支援教育の充実のために状況が許せば、読み聞かせやキャリア教育等のゲストティーチャーやボランティアとして地域人材の活用を考えている。 ・何か「できた」という自信を持たせるような声かけや「ほめる」場面を増やしていってほしい。そうすることで「自主性」や「学びに向かう力」を高め、健やかな成長につながると思う。子どもたちの自尊感情や自己有用感を持たせることで、「自主企画・自主運営」での生徒活動がさらに意義深いものとなり、主体的に学び、自分で考え、判断し、行動していくために本当に必要な学力をつけていくことにつなげてほしい。

（2）「豊かな心」の育成に向けて

	<p>重点目標</p> <p>キャリア教育の充実</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 全ての取組が“生き方”にはたらく・つながる教育（学習）活動の推進 ○ 自分の未来を展望するための進路学習・生き方探究教育（ファイナンスパーク学習等）・生き方探究チャレンジ体験事業などの取組の推進 <p>人権教育と道徳教育の充実</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ すべての取組において、自分と仲間、そしてすべての人間を大切に思い、尊重できる教育（学習）活動の推進 ○ 高い倫理観と差別を許さない人権感覚を身につけ、正しく判断し、行動する生徒の育成 <p>具体的な取組</p> <p>生徒の「自主企画・自主運営」を核とした活動を推進するとともに、生徒たちを見守り、大切に育てていただいている地域と一緒に協働するカリキュラムマネジメントの推進</p>
--	--

(1) CGH（クリーン・グリーン・ハート to ハート）活動の推進

- ・クリーン活動…美化委員会発の学習環境の整備、地域美化等、ひと、まち、自分に貢献する学習
- ・グリーン活動…2年生による校内緑化活動から“いのち”につながる学習
- ・西院ホスピタリティ…3年生による保育園、幼稚園における保育・読み聞かせ等ボランティア活動から“社会”につながる学習

(2) 地域と一体となった取組への参画並びに保育園・幼稚園児、小学生など異年齢との協働学習の推進

- ・心を「ホッと」プロジェクト…総合的な学習の時間で、地域の独居老人事情の把握、生徒主体の企画・運営による活動を通じた敬老精神の育成
- ・職場体験学習（生き方探究チャレンジ体験）
…地域の資源である校区の職場を中心とした生き方探究教育（キャリア教育）
- ・震災・防災学習…校区の第一・第二自治連合会の自主防災や消防団をゲストティーチャーとして連携し、いのちを守ることについて学ぶ震災・防災学習に取り組む
- ・西院ふれあいコンサート…地域芸能（六斎念佛）や保・幼・小・中の教育団体・介護施設の方たちが一堂に会しての音楽会の参画で、異年齢協働学習（小中合同学校運営協議会・地域生徒指導連絡協議会主催）への参加
- ・西院ふれあいまつり…準備もふくめた地域交流の場へボランティア活動として生徒が参画して、地域社会との協働学習の設定

(3) 道徳教育、人権教育、特別活動の充実

- ・「いのちをみつめあう、いのちを大切にする」生徒の育成を目指す道徳教育の実践
- ・不登校、いじめについて未然に防止するために、課題意識を持ち、内発的な指摘の目を持つ生徒、教職員の育成
- ・すべての生徒が、国際理解を含んだ人権学習を通して、グローバル社会で生きていく力や感性の育成
- ・体験学習「C G H活動」「職場体験」など地域と連携した縦割学習で、豊かな心の育成
- ・挨拶、感謝の気持ちなどを伝え合う、仲間や地域とのつながりを大切にする教育実践
(教職員、生徒会共同の毎朝の挨拶活動)
- ・豊かな心を育み、いのちを大切にし、「生きる力」の育成に焦点を当てた特別の教科「道徳」の授業の充実と評価研究先行実施校として培った評価実践をもとに、更に研究をすすめ、質の高いものへと改善する取組

(4) 規範意識と集団における協調意識の向上へむけた実践

- ・「生徒指導の充実に向けた実践研究」推進事業における研究指定を受け、生徒指導の三機能と4つの視点を活用した「つながり」を中心にすえた生徒指導の実践
- ・生徒指導委員会、いじめ対策委員会、不登校対策委員会の時間内会合化（S C、養護教諭、総合育成支援教育主任等と学年・学校組織の連携強化）
- ・薬物乱用防止教室、非行防止教室、防煙教室、情報モラル教室等の実施とカリキュラムマネジメント
- ・国際理解教育・障がい者教育・性教育・男女平等教育・LGBT 等に関する人権教育の充実と

カリキュラムマネジメント

(取組結果を検証する) 各種指標

- ・学校評価アンケート（生徒・保護者・教職員）における生活や社会性に関わる項目
- ・生徒による「自主企画・自主運営」の手法による取組の成果と課題
- ・C(クリーン)、G(グリーン)、H(西院ホスピタリティー)活動の取組の成果と課題
- ・教育相談アンケート
- ・クラスマネジメントシート
- ・職場体験の取組と生徒および事業所からの事後アンケート

中間評価

各種指標結果

○生徒質問紙の「人が困っているときは、進んで助けていますか」の項目では、肯定的回答意見が87.3%と昨年度に比べて、7.6%高い数値であった。

○「人の役に立つ人間になりたいと思いますか」の項目では、肯定的回答意見が、95.8%と昨年度同様に高い数値であった。

<生徒、保護者、教職員アンケートより>

○保護者アンケート「子どもはすすんで気持ちのよい挨拶をしている」の項目では、肯定的な回答意見が80%であった。昨年度よりは4%下回ったが、昨年度同様、高い水準を維持している。毎朝の校門での生活委員会主催のあいさつ運動や教職員のあいさつ指導、教職員アンケートの中でもそれを感じる。

○保護者アンケート「子どもはお互いの人権を大切にしようとする気持ちや態度が育ってきている」の項目では、肯定的な回答意見が93%と非常に高い数値を得ている。生徒アンケート「お互いの人権を大切にし、人のいやがることをしたり、悪口を言ったりしていない」の項目では、肯定的な回答意見が92%と非常に高い数値であった。保護者と生徒の認識が一致している。また、保護者アンケート「子どもは友達の良さに気づき、互いの意見を認め合ったり、新たな考えを知ったり、互いに高め合ったりしながら学習や活動をしている」の項目では、87%とこれも高い数値を示している。

○保護者アンケート「子どもは、自分には良いところがあると感じている」の項目では、肯定的な回答意見が、88%また、生徒アンケート「自分には良いところがあると思う」の項目では肯定的な回答意見が、80%であった。昨年度よりは生徒と保護者の感覚のずれはなくなっているが、まだまだ生徒と保護者の感覚のずれが感じ取れる。

○保護者アンケート「子どもは、夢やあこがれ、目標を持っている」の項目では、肯定的な回答意見は昨年度よりも少し低く75%という数値であった。また、生徒アンケート「将来の夢や仕事、中学校卒業後の進路について考えたり、学んだりする機会がある」の項目では、肯定的な回答意見が84%であった。生徒と保護者の感覚のずれが感じ取れる。

自己評価

分析(成果と課題)

(成 果)

○“自分には良いところがあると思う”などの項目で肯定的な回答意見が多いのは、西院中学校の特色の一つである参加体験型（「人とふれあう」等）の学習を通して、人権問題

を身边に感じるかたちで学習していることに起因すると考える。それが、人権意識や自己有用感を高め、夢や志を持つ生徒の割合の増加につながっている。

○昨年度より地域行事やボランティア活動の参加が増えた。また、学校内の教育活動を中心に行うことで、生徒自身で新しい取組を始めることができ、達成感を持ち、自己有用感や自尊感情を持つ生徒が増えた。その成果が、生徒質問紙の回答にも表れている。

○分掌主任を中心に、教職員が京都市人権研究集会に参加し、その内容について研修等で伝達した。

○保護者への啓発を進めたことで、保護者アンケートの「子どもはお互いの人権を大切にしようとする気持ちや態度が育ってきている」の項目の肯定的意見が、昨年度同様93%と非常に高い数値であった。

(課題)

○さらに質の高い豊かな心を持つ西院らしい生徒育成を目指し、地域に開かれたカリキュラムマネジメントを進めていく必要がある。

○保護者アンケート「自分によいところがあると感じている」の項目の高い肯定的な回答意見が、「夢やあこがれ、目標を持っている」の項目の肯定的回意見の上昇につながるようにキャリア教育の視点からも自らの将来を展望する機会を充実させるために、カリキュラムマネジメントを行う必要がある。

分析を踏まえた取組の改善

○年度当初に立てた重点目標や具体的な取組が効果的に機能するように年間計画を精選、変更しながら、課題解決に向けて、P（計画）・D（実行）・C（評価）・A（改善）サイクルを通してカリキュラムを運用する。特に、C（評価）・A（改善）段階の一層の充実を図る。生徒の活動場面を保障できるよう今までのやり方にこだわらず、「できることをやりきる」ことに重点を置く。

(最終評価に向けた)取組の改善を検証する各種指標

- 12月実施の保護者・生徒・教職員アンケート（「豊かな心」の育成に関する項目）
- 生徒指導に関わる年度末反省
- 2月実施の学校運営協議会拡大3役会での分析や意見

学校関係者評価

学校関係者による意見・支援策

○小中一貫教育の実践を通して、児童・生徒の心を育てられていると感じている。学校運営協議会としても、より一層学校教育推進のために協力していきたい。

○今年度も、保護者が子どもの学校での姿を見る機会が数段に増えた。親が我が子への理解を深めるためにも、子どもの学校生活を観る・知る機会が多いことは、とても有り難いことである。地域としても見守り活動等日々の活動の中で、関わっていきたい。

○登下校の見守りをしているときに、子どもたちから返ってくるあいさつが、昨年度よりは元気になってきたように感じる。今一度、人と人とのつながりという視点でもあいさつの大切さについて、学校と地域と協働して、子どもたちに教えていきたい。

最終評価

(中間評価時に設定した) 各種指標結果

- ・学校評価保護者アンケート「子どもはすすんで気持ちのよい挨拶をしている」の項目では、肯定的な回答意見が83%となり、高い水準を維持している。生徒アンケートでも89%と、非常に高い水準であった。毎朝の校門での生活委員会のあいさつ運動、あいさつを返してくれた回数の提示の効果が出ている。あいさつ指導の中でもそれを感じる。
- ・学校評価保護者アンケート「子どもはお互いの人権を大切にしようとする気持ちや態度が育つてきている」の項目では、肯定的な回答意見が、94%と非常に高い水準である。また、生徒アンケート「お互いの人権を大切にし、人のいやがることをしたり、悪口を言ったりしていない。」の項目では、保護者アンケート同様に、肯定的な回答意見が96%、「正しい言葉遣いや行動を心がけている」の項目では、肯定的な回答意見は92%と非常に高い水準であった。
- ・学校評価保護者アンケート「子どもは、自分には良いところがあると感じている」の項目では、肯定的な回答意見が91%、生徒アンケート「自分には良いところがあると思う」に対して肯定的な回答意見は84%と保護者と生徒での若干の意識のズレがあった。
- ・学校評価保護者アンケート「子どもは、夢やあこがれ、目標を持っている」の項目では、肯定的な回答意見は、71%であった。生徒アンケート「将来の夢や仕事、中学校卒業後の進路について考えたり、学んだりする機会がある」という項目では、肯定的な回答意見は、85%と高い水準である。

<年度末反省>

- ・保健体育の授業や性教育学活、人権学習を通して男女平等について学ぶ機会を設けることができた。また、助産師の方に外部講師として、講演を実施でき、命の尊さや大切さについて考えることができた。
- ・外国人教育・国際理解教育において、本校にも外国から転入してくる生徒も増えてきたので、その対応について、教育委員会より講師を招き、研鑽を高めた。

自己評価	分析 (成果と課題)、重点目標の達成状況、次年度の課題
	<p>(成 果)</p> <ul style="list-style-type: none">・あらゆる人権問題に起因する課題を明確にして、本校生徒のルーツ、背景をしっかりと見据えた学習を実践することができた。それが、人権意識や自尊感情を高め、「自分には良いところがあると思う」「お互いの人権を大切にし、人が嫌がることをしたり、悪口を言つたりしていない」の項目の肯定的な回答意見の高い水準につながった。・今年度は地域行事やボランティア活動への参加が、実施できた。西院中学校教育活動の特色である地域との連携・協働を柱にした取組ができ、学校内の教育活動を「自主企画・自主運営」していくことで、成就感や達成感を持ち、自己有用感や自尊感情を持つ生徒が増えた。 <p>(課 題)</p> <ul style="list-style-type: none">・豊かな心を持つ西院らしい生徒育成を目指し、生徒たちにとっての「心のふるさと西院」づくりを推進するために、地域に開かれたカリキュラムマネジメントを進めていく中で、より質の高い学習を構築していく必要がある。・「自分によいところがあると感じている」の項目の高い肯定的回意見からわかるように自尊感情や自己有用感の高まりは見られるが、自らの将来を展望する機会を充実させるた

	<p>めに、カリキュラムマネジメントを行う必要がある。</p> <p>分析を踏まえた取組の改善</p> <ul style="list-style-type: none"> 今まで行ってきた取組を少し変えていくことで、専門的な知識を持つ講師を外部からゲストティーチャーとして招くことができました。今後、内容によっては参加体験型の学習に加えて、オンラインやリモートでの学習も取り入れたりしていく。 あらゆることに対して差別のない誰もが暮らしやすい社会を目指すために、今後も、地域の実態を踏まえた学習を取り組むとともに困りを抱えた生徒が相談しやすい環境整備を心がける。 CGH活動の取組の形を今までの「行事連動型」から「教科横断型」へと変えていくためのカリキュラムを開発し、「探究的な学習」を充実させる総合的な学習の時間を展開していくためにマネジメントサイクルを通して運用していく。
学校関係者評価	<p>学校関係者による意見・支援策</p> <ul style="list-style-type: none"> 生徒の姿や態度を周りの大人がしっかりと見守り、生徒が発しているSOSのサインを見落とさないようにしていくことで、問題行動の未然防止や困りを抱えている子どものケア等が適切にできると考えている。 お互いの人権を大切にし、自分も他人も大切にする生徒の姿を見てとれることは、喜ばしいことである。事案としてはそれほど多くはないが、スマートフォンの使用、特にSNSでの誹謗、中傷、ゲーム等を含め日常生活にも支障をきたす恐れのある依存性等が見えにくくなっている。学校・家庭が連携して、指導していく中で家庭の果たす役割は大きいと考えている。地域でも啓発活動等、できることがないか考えていきたい。

(3) 「健やかな体」の育成に向けて

	<p>重点目標</p> <ul style="list-style-type: none"> 心豊かな学校生活、家庭生活を計画的・創造的に過ごすことができる生徒の育成 心身ともに健康であることの大切さを感じ、健康・体力増進に努めることができる生徒の育成 <p>具体的な取組</p> <ul style="list-style-type: none"> 感染症をはじめとする病気やけがに対して、その原因や予防策を正しく理解し、リスクを自ら判断して行動をとができるなど、自身の健康を保持・増進する意識と実践的態度の育成 小中及びPTAと連携して、生涯にわたる心身の健康の保持増進を目指して、全生徒が規則正しい生活（食育を含む）を送れるような家庭生活の啓発 非行防止教室、防煙教室、薬物乱用防止教室や指導の充実 交通マナー向上を目的とした自転車安全教室等の安全教育の充実と自転車向け賠償責任保険加入の啓発 スマートフォン・ケータイ依存の危険性について啓発及び情報モラル等の教育推進 (生徒の非行防止教室及び情報モラル教室やPTAの情報モラル教室の実施) 社会とつながる授業（性に関する指導）の充実 (助産師会協力による命・性に関する指導の実施)
--	---

- ・災害発生時の危機回避や関係機関（消防署・区役所等）との連携など、地域で自他のいのちを守り、災害発生時に役立つ危機管理マニュアルに基づく研修や訓練の実施及び自治連主催の自主防災訓練の参加
- ・部活動ガイドラインを遵守し、生徒自らの自主性において、全員参加を推奨する部活動の推進

(取組結果を検証する) 各種指標

- ・生徒全員入部を推奨する部活動の取組
- ・学校評価に係る生徒アンケート・保護者アンケートにおける生活習慣等に関する項目
- ・薬物乱用防止教室、性に関する指導等の学習活動後の生徒アンケートや感想

中間評価

各種指標結果

- 保護者アンケート「保護者やPTA、地域の方との連携がとれている」の項目では肯定的回答意見が87%であった。昨年度より学校行事、地域行事、ボランティア活動等の取り組みが増えた（コロナ前に戻った）のが影響している。
- 保護者アンケート「学校教育活動中の健康面・安全面の配慮は適切である」の項目では、肯定的回答意見が、93パーセントと非常に高い数値であった。
- 今年度も一小一中の取組として登下校時の地域の見守り活動で、小学生、中学生への挨拶や声かけを実施できた。
- 保護者アンケート「子どもは早寝・早起き・朝ごはん・排便など基本的な生活リズムや健康に気をつけている」の項目では、今年度70%であった。この結果は、昨年度まで3年連続で上昇していたが、今年度は下回った。他の項目に比べるとまだまだ低い数値ではある。しかし、生活リズムの乱れに起因する遅刻もほとんどない。生徒質問紙の「朝食を毎日食べていますか」の項目を見ても、肯定的回答意見が90%であった。
- 部活動は約90%の生徒が参加しており、全校生徒が自ら自主的に部活動に参加できる体制ができている。

自己評価

分析（成果と課題）

（成 果）

- 生徒への携帯・スマートフォンの弊害やスマホを介したトラブル等についての授業を各学年で積極的に設定できた。
- 以前に増して、学校とPTA、地域との連携・協力の重要性を感じられる。それにより生徒が安心感を持ち、安全に中学校生活を送ることができている。学校にメールシステム（「すぐーる」）やPTAホームページの開設により、保護者が学校の様子を知る機会が増えた。
- 各部活動顧問がガイドラインを守り、全校生徒が自ら自主的に部活動に参加できる体制ができており、生徒に体力増進や心と体を健やかに育む意義などを理解させることができた。

（課 題）

- 指導を要する携帯・スマートフォンのトラブル発生が、今年度多かった。

- 体力テストの結果が芳しくなかったので、学校生活における体力増進及び健康管理を推進する。小中での情報交換も推進する。
- PTA、地域と連携・協働して、全生徒が規則正しい生活（睡眠や食育を含む）を送れるような啓発を進める。（早寝・早起き・朝ご飯の推奨）
- 全教職員が絶えず、過去の京都市中学生の薬物事案を理解して危機意識を持つ。また、生徒と共感的な人間関係をはぐくみ、いつでも相談できる信頼関係をつくる。

分析を踏まえた取組の改善

- ストレスや漠然とした不安からか心身のバランスを崩している生徒が、増加傾向にある。スクールカウンセラーや関係機関と連携を取りながら、生徒の心と体のケアをしていく。
- 参加体験型や主体的・対話的で深い学び」の視点を取り入れた携帯電話・パソコン・スマートフォン等の弊害やトラブル等について考える授業を教職員が研修を受けて、学校独自で取り組む。
- 体育の授業、体育的行事、部活動等で体力増進を意識して行う。
- 薬物乱用防止については、引き続き地域、保護者、生徒への啓発強化に取り組む。

（最終評価に向けた）取組の改善を検証する各種指標

- 12月実施の保護者・生徒・教職員アンケート（「健やかな体」の育成に関する項目）
- 生徒指導に関わる年度末反省
- 2月実施の学校運営協議会拡大さん役会での分析や意見

学校
関
係
者
評
価

学校関係者による意見・支援策

- 部活動や地域行事に参加している生徒の姿を見ると、たくさんの生徒が楽しそうに生き生きと参加・活動していると感じる。地域としても、休日も含めて児童・生徒が安心をして安全に学校へ行けるよう、登下校の見守り活動等にさらに尽力していく。
- 塾や習いごとで就寝時間が遅くなる子どもが、学年が上がるにつれて増えていくのは、仕方ない部分もあるが、学校生活の中で、子どもたちの心と体の健康にも気を付けていただきたい。

最終評価

（中間評価時に設定した）各種指標結果

＜生徒・保護者アンケートの結果より＞

- ・学校評価保護者アンケート「子どもは早寝・早起き・朝ごはん・排便など基本的な生活リズムや健康に気をつけている」の項目では、肯定的回答意見は、63%と今年度はとても低い結果になった。
- ・学校評価保護者アンケート「保護者やPTA、地域の方との連携がとれている」の項目では、肯定的回答意見は86%であった。
- ・学校評価保護者アンケート「学校教育活動中の健康面・安全面の配慮は適切である」の項目では、肯定的回答意見は94%で、非常に高い水準である。
- ・教育委員会より講師を招きネットに関する非行防止教室、また本校教員が講師として、薬物講

座を開催した。実施後のアンケートでは、ほぼ全員がネットの危険性と薬物に対する強い危機感と怖さを感じていた。

・部活動は約90%以上の生徒が参加しており、強制的な部活動参加ではない点を鑑みて、良好な数値である。

＜年度末反省＞

・部活動では、制限された中で、安心・安全に十分留意した中で活動することができた。

・今年度も、助産師さんによる性教育を実施することができた。来年度も、ぜひ、講師を招いて実施したい。

自己評価

分析（成果と課題）、重点目標の達成状況、次年度の課題

（成果）

- ・避難訓練については、火災・地震・洪水に対する訓練を実施することができた。
- ・2年生対象に、外部から講師を招いて、自転車安全教室を講義形式で実施することができた。
- ・部活動については、部活動ガイドラインを遵守することができた。
- ・学校と保護者が連携して、高い意識を持って、生徒の安心・安全面を最優先した取組が実践することができた。
- ・今年度も一小一中の取り組みとして登下校時の地域の見守り活動で、小学生、中学生への挨拶や声かけを実施することができた。

（課題）

- ・昼休み等を利用したグラウンドでの外遊びは、積極的に行うことができたが、部活動に関しては、部活動の終了時刻を15分繰り上げの影響を大きく受けた。
- ・体育健康教育室のリーフレットを活用し、各学級で食育指導を実施したが、時間的に余裕がなく、継続した指導ができなかった。

分析を踏まえた取組の改善

- ・ストレスや漠然とした不安からか心身のバランスを崩している生徒が、一定数いる中で、引き続き、スクールカウンセラーや関係機関と連携を取りながら、生徒の心と体のケアをしていく。
- ・参加体験型や「主体的・対話的で深い学び」の視点を取り入れた携帯電話・パソコン・スマートフォン等の弊害やトラブル等について考える授業を教職員が研修を受けて、学校独自で取り組む。そのための外部講師の招聘も考える
- ・今年度、災害時の引き渡し訓練を実施したことで、有事の際の安全な引き渡しの仕組みを整えることができた。
- ・授業や体育的行事、部活動での活動等を通して、健康に必要な体力を身につけるだけでなく、心と体を一体としてとらえた指導を行う。
- ・食育教育の推進
- ・薬物乱用防止については、引き続き地域、保護者、生徒への啓発強化に取り組む。

学校 関 係 者 評 価	<p>学校関係者による意見・支援策</p> <ul style="list-style-type: none"> ・今年度も同様に、不審者情報は少ないが、FAXなどによる脅迫などがあったので、見守り活動の中で注意喚起をしていきたい。 ・1年間、生徒たちは安全に、そして安心して学校に通えていたように思う。地域の者が見守りで道に立っていると、小中学生ともに元気に挨拶をしてくれることは、大変嬉しいことであり、落ち着いた生活をしていることがうかがえる。これからも、学校運営協議会の安心安全部会を中心に、子どもたちとの関わりを深めていきたい。 ・教室や集団の雰囲気に息苦しさを感じたりしている生徒へのケアを手遅れにならないうちにしていくために学校・保護者・地域の情報共有や連携を取っていきたい。 ・塾や習いごとで就寝時間が遅くなる子どもが、学年が上がるにつれて増えていくのは、仕方ない部分もあるが、学校生活の中で、子どもたちの心と体の健康にも気を付けていただきたい。

(4) 学校独自の取組

<p>重点目標</p> <p>「中学卒業時の自立・自己実現のための確かな礎（自己指導力）を築く“キャリア教育”」</p> <ul style="list-style-type: none"> ・確かな学力を身につけ、生涯にわたって自ら学び続けようとする力を育てる ・“西院の子どもは西院で育てる”⇒自己有用感・自己肯定感を高める ・教育活動活性化のために地域の人材やハードの活用（カリキュラムマネジメント）
<p>具体的な取組</p> <ul style="list-style-type: none"> ○児童・生徒の姿から小・中・地域との課題の把握と共有 ⇒ 授業の評価、学校評価の活用（小中各部での情報交換、小中合同学校運営協議会との協働） ○日常的な情報交換と問題意識の共有（小中各部での情報交流） ○学力実態の分析・考察・共通理解 ⇒ 小・中合同係り会等での情報交流（9年間の学力実態：プレジョイント、ジョイントプログラム、全国学力・学習状況調査、学習確認プログラム、進学状況報告等） ○<u>確かな手立て⇒言語活動の充実や将来に必要な資質・能力の育成をめざして同じ目的意識を持った研究の歩み⇒言語能力や情報活用能力を伸ばす共同研究（めあての設定・手立ての工夫・学習の振り返り・指導と評価の一体化・あらゆる場面で指導をやり切る（探究活動推進校としてのポスター発表等））</u>
<p>(取組結果を検証する) 各種指標</p> <ul style="list-style-type: none"> ・小中合同授業研修会の実施 ・保・幼・小・中や地域との連携の取組 ・異文化理解・国際理解の取組 ・学校評価アンケート（生徒・保護者・教職員・学校関係者等）における地域貢献等に関わる項目 ・各自治連合町内会、実行委員会等における情報発信と情報共有

中間評価

各種指標結果

- 言語活動や探究活動を含めた西院小中連携による学力向上に向けての各校でのポスター発表
- 西院小中連携による育成学級の交流、生徒指導分野の連携（小中連絡会や通級連絡会）及び6年生の英語科の授業
- 厳しい状況下の中での年度当初の小中合同職員会議を実施した。夏季小中合同研修会も実施し、研鑽を深めた。また、小中授業交流も実施する予定

自己評価

分析（成果と課題）

- 9年間でつけるべき力の共有と連携した実践に加え、小中連携の取組の分析やカリキュラムマネジメントに関する研修が小中連携主任、研究主任、生徒指導主任を中心に深まつた。
- 「生徒指導の充実に向けた実践研究」推進事業における研究指定を受け、「つながりのある集団づくり～居心地のいい学校を目指して～」を研究テーマに生徒指導力の向上に関する取組を教職員が積極的に実践している。
- 地域の保・幼・小・中が連携した地域に開かれた教育が、学校運営協議会を中心に展開できている。また、保・幼・小・中の12年の成長を相互の交流で見守ることができている。
- 小中連携から得られた情報をもとに、中学校で組織的・継続的に対応することでいじめ事案の未然防止及び新たないじめ事案が減少した。
- 小学校時の不調等が理由で登校できなかった生徒が、取組を行っていく中で改善傾向になってきた。

（課題）

- 不登校傾向にある生徒が一人も出ないようにするための学校づくり。分析を踏まえて取組を改善する。
- 言語活動の充実を図り、「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けた授業改善を行うことで質の高い学びを実現する。
- 12年間の学びの連続性を大切にした開発的生徒指導や学力向上にむけた取組を継続していく。
 - ・園児、小学生と生徒会の連携事業により、さらなる自己指導力の向上を目指す。
 - ・探究活動推進校として小中間の連携をさらに強化し、生徒の「探究する力」を校種横断的に伸長する。
 - ・小中連携した9年間継続した道徳授業の改善や評価の研究を継続する。
 - ・小学校の英語活動、英語科で、小中連携した学びの連続を図る。（中学校教諭のTT参加）
 - ・地域と小中が連携した朝読書や読み聞かせの取組を継続する。
- 不登校傾向にある生徒に対する取組として、生徒指導部が主体となり担任・学年と家庭、関係機関との連携を強化することで支援を強化する。

分析を踏まえた取組の改善

- 言語活動の充実を図り、「主体的・対話的で深い学び」の視点に立った授業改善を行うこ

とで質の高い学びを実現し、思考力・判断力・表現力等の育成を重視するために教科等の教育活動の充実を図るための研修や教科会の充実を図る。

○12年間の学びの連続性を大切にした開発的生徒指導や学力向上にむけた取組を継続する。

- ・園児、小学生と生徒会の連携事業により、さらなる自己指導力の向上を目指す。
- ・総合的な学習の時間を中心に教科横断的な視点で、小中間の探究活動のさらなる連携強化の充実を図る。
- ・小中連携した9年間継続した道徳授業の改善や評価の研究を継続する。
- ・小学校の英語活動、英語科で小中連携した学びの連続を図る。(中学校教諭のTT参加)
- ・地域と小中が連携した朝読書の時間に行う読み聞かせ活動の取組を継続する。

○不登校傾向にある生徒に対する取組として、生徒指導部が主体となり担任・学年と家庭、関係機関の連携を中心とした支援を強化する。（「つながる・つなげる」ことで居心地のいい学校づくり）

(最終評価に向けた) 取組の改善を検証する各種指標

- 12月実施の生徒・保護者・教職員アンケート
- 各分掌における年度末反省
- 2月実施の学校運営協議会拡大三役会での小中一貫教育の成果等に関する分析と意見

学校
関
係
者
評
価

学校関係者による意見・支援策

- 学校のさまざまな教育活動を通じてキャリア教育を推し進めていく上で、必要な人的・物的資源として地域をどんどん積極的に活用してほしい。地域としても協力していく。
- 学校として、個々の生徒の状況に応じて丁寧に粘り強く寄り添っていってほしい。しっかりと力を付けて、進路実現をして社会に巣立ってほしい。
- 一人一人の子どもたちが、活躍できる場を作りたい。地域行事や地域活動に子どもたちが積極的に参加してくれることを期待している。

最終評価

(中間評価時に設定した) 各種指標結果

- ・学校評価保護者アンケート「子どもは地域の行事やボランティア活動に参加している」の項目では、今年度も地域行事が再開されたものもある関係で、肯定的回答意見の上昇が見られた。
- ・学校評価生徒アンケート「地域のためにすすんで活動したいと思う」の項目では、肯定的回答意見が、76%であった。
- ・小中合同の学校運営協議会で、「現在の教育を大切にしながら、小中連携をさらに進めてほしい」と評価を得た。

自
己
評
価

分析 (成果と課題)、重点目標の達成状況、次年度の課題

(成果)

- ・小学校の英語活動について、小学校と連携しながら実施することができた。
- ・地域の読み聞かせサークルの方と連携した朝読書の時間に行う読み聞かせ活動の取組を実施することができた。

- ・小学校6年生を招いて、生徒会オリエンテーション、中学校授業体験、今年度は新たに部活動体験を実施することができた。
- ・「西院フォーラム」を中学生と小学6年生に参加してもらい、実施することができた。
- ・小中育成学級の交流学習が、今年度は2回実施することができた。(昨年度より1回減)(課題)
- ・以前行っていた西院デイケアの取組や保幼小中高連携の取組などを昨年度より、西院ホスピタリティーと形を変え実施したが、今後日程や方法を検討していく必要がある。
- ・コロナ禍の間、地域と連携した特色ある教育活動ができていなかったため、過去の流れを知る教職員が少なくなってきた。

分析を踏まえた取組の改善

- ・対人関係の不調が理由の一つとなる登校しぶりが増加し、継続的な取組を行っていく必要のある事例について、生徒指導部が主体となり担任・学年と家庭、小学校や関係機関とも連携しながらの支援を強化する。
- ・コロナ禍から学んだことを生かして、各種取組の時期や形態を考えながら、実施していく。

学校
関
係
者
評
価

学校関係者による意見・支援策

- ・学校運営協議会として、西院小学校も西院中学校もどちらも西院のまちの学校として、これからもさらに支援していきたい。
- ・いろいろな学校での取組を、地域に発信できる方法を考えていきたい。
- ・一小一中9年間のつながりが大切である。子どもたちが活躍できる場、評価できる場を増やしてほしい。

(5) 教職員の働き方改革について

重点目標

- ・教職員が心身ともに健康に勤務できるよう業務の質的転換を図り、適正な勤務時間の中で最大の効果を上げられる環境を構築する。
- ・教職員一人一人に勤務時間を意識させ、子どもと向き合う時間を十分に確保するために、働き方に関する意識改革推進する。

具体的な取組

- 出退勤システムによる出退勤時間の記録や留守番電話による電話対応終了時刻の設定
- 学校行事、取組の精選や会議の効率化、G I G Aスクール構想の下、学習場面におけるG I G A端末、I C T機器の積極的な活用と校務における採点ソフト等を利用して業務の効率化を促進
- 部活動ガイドラインに基づく適切な休養日・練習時間の設定

(取組結果を検証する) 各種指標

- ・出退勤管理システムによる出退勤時間の記録や時間外勤務の状況
- ・年休取得率

・月行事・年間行事予定の検討と吟味の結果

中間評価

各種指標結果

○教職員アンケート「設定された退校時刻を守れている」「業務の優先順位を明確にし、見通しを持って業務を行っている」「計画的に年休を取得しリフレッシュできている」の項目では、肯定的回答意見が約95%と高い数値であった。教職員一人一人に勤務時間を意識させ、子どもと向き合う時間を十分確保するために、出退勤管理システムによる出退勤時間の記録や電話対応終了時刻や退校時間の設定と遵守等を通じて働き方に関する意識改革を推進した。

○学校行事を精選して、質の高い教育課程の編成・実施を推進した。

○月行事・年間行事予定の検討について運営委員会を中心に学校体制で行った。

○教職員アンケート「部活動ガイドラインに沿って活動し、休日はリフレッシュできている」の項目では、肯定的回答意見が約95%と高い数値であった。各部活動の活動状況を把握し、部活動ガイドラインに基づく適切な休養日及び活動時間の設置を行い、その遵守に努めた。

自己評価

分析（成果と課題）

（成 果）

○コロナ前の状態にただ学校行事を戻すのではなく、生徒による「自主企画・自主運営」は大切にしながら内容や時間を検討し、事前事後の取組を精選することができた。

○退勤時刻の徹底を図り、超過勤務者数や超過勤務時間が大幅に減少した。

○部活動ガイドラインは徹底できている。

（課 題）

○本市の教育でもある「生徒一人一人を徹底的に大切にする」姿勢を忘れず、教職員が自身とともに健康に勤務できるように業務の質的転換を図り、適正な在校時間の中で最大の教育効果を上げられる環境を構築する。そのために、行事の精選や会議の効率化、ICTの有効活用による校務の効率化、部活動ガイドラインに基づく適切な休養日・練習時間の設定など、日々の教育活動を見直し、学校における「働き方改革」をさらに推進し、より一層の教育の質の向上を目指す。

分析を踏まえた取組の改善

○カリキュラムマネジメントの視点を持ち、後期の学校行事、取組の精選を進め、超過勤務者や超過勤務時間のさらなる減少へ向けた徹底した取組を推進する。

○学校の教育力を高めるため、教職員が組織として教育活動に取り組む体制づくりを推進する。教職員一人一人に校務の効率化や勤務時間についての意識を持たせる。

（最終評価に向けた）取組の改善を検証する各種指標

□出退勤管理システムによる出退勤時間の記録及び時間外勤務の状況

□部活動時間とその取組状況

□各行事・取組の反省と年度末反省における来年度の行事計画検討の状況と教育課程の編成の状況

学校 関 係 者 評 価	学校関係者による意見・支援策
	<p>○教職員の方々の日頃の取組に感謝している。ただ、子どもと直接関わってくれる教職員の方々が元気でいてくれることが、教育効果をあげる意味でも一番大切なことである。働き方改革は進めていくべきである。とはいって、教職員の勤務時間内に保護者や地域の方（PTAの会議、学校運営協議会等）は、集まるのは難しいという面もある。難しい課題である。</p> <p>○地域行事の制限がなくなり、コロナ渦前の内容（一部新たな内容に変更）でほぼ実施しているため、教職員の方々との関わりが少し増えてきている。今後も是非ともお力を借りしたいと考えているが、その一方で働き方改革について考えていかなければならぬことは理解している。</p>

最終評価

自己 評 価	(中間評価時に設定した) 各種指標結果
	<ul style="list-style-type: none"> ・行事の精選を実行できた。 ・部活動ガイドラインを遵守し、それに基づく適切な休養日・練習時間の設定など、日々の活動を見直すことができた。 ・教職員全体としては、校内のセットする時間を早め時間外勤務は減少している。

学校 関 係 者 評 価	分析（成果と課題）、重点目標の達成状況、次年度の課題
	<p>（成果）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学校行事や地域と協働する行事の形態を見直すことができた。 ・今年度より、部活動の終了時刻を15分繰り上げ、その分、完全下校時間を早めた。 ・退勤時刻の徹底や部活動の終了時刻を15分繰り上げたことにより、超過勤務者数や超過勤務時間が減少した。 <p>（課題）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・特定の教職員の超過勤務が、改善できていない。 ・通常の教育活動に戻った時の教職員の負担を軽減する取組を考えていく必要がある。 ・学校に求められる役割が肥大化する中で、教科指導や生徒指導など本来の職務に専念できる時間が減少している傾向がある。

価	・教職員の方々には本当によくやっていただき、感謝している。その結果が、日々の子どもたちの様子や学校評価アンケートの結果に表れている。教職員が心身ともに健康に勤務できるような環境づくりが、教育の質を向上させるためにも重要であるので、働き方改革を一層進めてもらいたい。
---	--

(6) いじめの防止等についての取組に向けて

重点目標

すべての教職員が「いじめはどこでもいつでも、どの子どもにも学校にも起こり得る」という危機意識の下、「好ましい人間関係を築き、豊かな心を育てるとともに、いきいきと学ぶことができる魅力ある学校・学年・学級づくり」、「おだやかな気持ちで生活し、学習活動に集中できる教育環境の整備」に取り組むことで、いじめを生まない西院中学校づくりに努める。

具体的な取組

「学校いじめの防止等基本方針」に同じ

(取組結果を検証する) 各種指標

- ① 全教職員が学校いじめの防止等基本方針の内容を理解し、組織的対応に努めている
- ② 学校のいじめ対策委員会のメンバーを生徒に紹介している
- ③ 学校評価アンケートにおける「私は、学校へ楽しく通っている」及び「私は、お互いの権利を大切にしようとする気持ちや態度が身についている」の項目
- ④ 生徒・保護者の訴え（アンケート結果含む）や相談内容を組織として共有している
- ⑤ 保護者や学校運営協議会等に、学校いじめの防止等基本方針や学校の取組を説明・周知している

中間評価

各種指標結果

- ① 教職員アンケート「いじめに対して、「学校いじめ防止等基本方針」に基づき、組織的に対応している」の項目について、肯定的意見が100%であった。
- ② 新入生歓迎会の終了後に、校長より全校生徒に対して、対面でいじめ対策委員会を紹介した。
- ③ クラスマネジメントアンケートを実施した。その結果として、いじめアンケートでは、設問1で「はい」と回答した生徒数は、学校全体で14人であった。特に1年生が10名と半数以上を占めている。しかし、現在は、継続していじめている生徒はほとんどいない。クラスマネジメントシートでは、「クラスの雰囲気は子どもたちにとってとても居心地のよいものとなっている」、「クラス内で孤立する子どもがほとんどなく、お互いにサポートし合える友人関係が形成されている」、「男女の仲も良く、和気あいあいとした学級の雰囲気があり、いじめのリスクは低いと考えられる」、「クラスの雰囲気は比較的落ち着いている」という分析結果が出た。
- ④ 保護者アンケート「子どもは友達の良さに気づき、互いの意見を認め合い、新たな考えを知ったり、互いに高めあったりしながら学習や活動をしている」の項目について、肯定的意見

が87%であった。生徒アンケート「先生や友達の意見をよく聞いて学習している」の項目では、肯定的回答意見が、96%。保護者アンケート「お互いの人権を大切にしようとする気持ちやが育ってきている」の項目では、肯定的回答意見が、93%であった。この結果からも、他者を認め、共生・協働の意識は強くなっていることが認められる。

- ③ 保護者アンケート「子どもは学校に楽しく通っている」の項目では、肯定的回答意見が89%、生徒アンケート「学校に楽しく通っている」の項目では、肯定的回答意見が95%で高い数値であった。教職員アンケート「子どもは楽しく学校で過ごしている」の項目では、肯定的回答意見が100%であった。学校に対する満足度が、保護者・生徒・教職員とも高いことを示している。
- ④ 生徒指導委員会を月1回実施し、相談内容等の共有を図った。
- ⑤ 学校運営協議会では、地域の方は、保護者と同様に単に結果や数値だけを知らせてしまうと「地域の学校でもそんなことが起こっているのか」「それは大変だ。」といった反応になりやすいので保護者の場合と同様、「いじめ」に対しての認識について丁寧に説明し、理解を求めている。そして、いじめは学校、家庭、地域社会等すべての関係者がそれぞれの役割を果たし、一体となって取り組むべき問題であることを説明している

自己評価

分析（成果と課題）

（成 果）

○年度当初の全教職員に対しての研修時だけでなく、クラマネ及びいじめアンケートを実施した。その際に、事前に意義や扱いについての共通理解と併せて基本方針についても再確認できた。「いじめ」について、教職員全員が意識を高く持ち、共通の理解を持って取り組むことが、少しずつではあるが確実にできるようになってきている。したがって、クラマネやアンケート、教育相談時に限らず、日々の教育活動の中で生徒の学校生活、人間関係を意識した指導を心がけて取り組めるようになってきている。

○いじめ対策委員会が校内に設置されていることやそのメンバーについては、集会や学活等で全体に紹介をしている。教職員には、常にいじめはもちろんのこと何でも、生徒はもちろんのこと、保護者に対してもすぐに相談できるような人間関係を構築するよう日頃より指導しており、教職員もそのことを意識して学校教育活動を実践している。その成果として、いじめを未然に防ぐことや事案に対しても早期発見・早期解決ができている。

○“楽しく学校に通っている”や“人権を大切にしている”の項目について、例年行っている学校行事や地域行事での様々な世代の人との交流が、人権問題や人権感覚の気づきにつながっている。活動の中で人権意識の高まりを感じ、日々の言動に反映している生徒の割合が増えているという結果が出ている。自己肯定感・自己有用感につながる思いや、人権意識の高まりを感じる生徒の割合が増えてきている。

（課 題）

○他者理解やその存在を尊重する意識は高いが、その反面、自尊感情や自己有用感に関する項目が若干低い。また、地域外への不安や弱さを強く感じる生徒の実態がある。

○ここ最近の懸案であるインターネット（スマホなど）等SNSによる人間関係のトラブルによる人権侵害やいじめ等が見えにくく、深刻化してしまってからの発覚・対処になってしまい場合がある。今後、不登校傾向への対応も含めて深刻化・長期化することが増えていくことも懸念される。

分析を踏まえた取組の改善

- アンケート後に実施する三者懇談会や教育相談の期間だけでなく、日々の教育活動の中でいじめに関わるすべての記述に対して、学年体制、学校体制で当該生徒だけでなく関係生徒からも情報収集を行い、実態解明と解決に向けた取組を行っていく。また、いじめ対策委員会で、学校全体の問題として共有し、取り組んでいく。
- 一人一人の生徒が、他者を信頼し、協働していく中で自己有用感を高め、夢を豊かに描き、実現できるように各種教育活動を実践していく。
- 生徒の実態や教職員の意識・取り組む姿勢等で成果が出ていることも増えている。今後もアンケート結果や教育相談等をより的確に分析、迅速に対応するといった形で動けるように努め、いじめ対策委員会を中心に短期間でのPDCAサイクルを機能させる。
- SNS等インターネット上のいじめ案件については、表面化した時点で深刻なこともあるので、見逃しのない指導を行う。

(最終評価に向けた) 取組の改善を検証する各種指標

- 学校評価教職員アンケートにおける「いじめに対して「学校いじめ防止等基本方針」に基づき、組織的に対応している」の項目
- 学校評価保護者アンケートにおける「子どもは学校へ楽しく通っている」及び「子どもはお互いの人権を大切にしようとする気持ちや態度が育ってきている」の項目。学校評価生徒アンケートにおける「学校に楽しく通っている」及び「お互いの人権を大切にし、人のいやがることをしたり、悪口を言ったりしていない」の項目
- 生徒・保護者の訴え（アンケート結果含む）や相談内容を組織として共有する。
- 保護者や学校運営協議会等に、学校いじめの防止等基本方針や学校の取組を説明・周知する。

学校関係者評価

学校関係者による意見・支援策

- 学校運営協議会としても地域としても、協力できることはさせてもらうという意見をいただいた。その上で、地域として一小一中の強みを生かし、9年間という義務教育の時間をしっかりと見守ることができている。その一方で「いじめ」もそうだが、予測不能なこれからの中を生きしていくための新しい課題に迅速かつ的確に対応していくかなければならないと感じているといった意見をいただくことができた。
- いじめの問題は、解決していくべき最重要課題の一つである。その解決に向けて、学校だけでなく、家庭・地域の連携・協力は不可欠である。
- 「だいたいそう思う」が高い項目については、その中身を留意する必要があるのではないか。「そう思う」、「そう思わない」と回答しているところは、はっきりしているのでいいが、あいまいな部分については、検証していくことも必要ではないか。

最終評価

(中間評価時に設定した) 各種指標結果

- ① 教職員アンケート「いじめに対して、「学校いじめ防止等基本方針」に基づき、組織的に対応している」の項目について、肯定的回答意見が100%であった。
- ② いじめ防止基本方針をホームページで広報した。また、集会や学活等で適宜、生徒たちに紹介し、

- 生徒が相談しやすい雰囲気作りや窓口を作った。
- ③ 今年度、実施したクラマネ、いじめアンケート、学校評価アンケート等の結果を分析したり、担任が教育相談等で聞き取った内容とあわせたりして、子どもたちの困りや悩み、その実態について徹底的に調査・点検し、必要な内容について学校全体のものとして取組を進めてきた。また、事案については、ことの軽重に関わりなく、週1回実施の補導の係会、月1回実施の生徒指導対策委員会（いじめ対策委員会を含む）及び全教職員で共通理解を図りつつ、学年体制を中心に迅速に対応し、その後の経過や見守りも継続して行った。
- ④ 後期の学校評価アンケートで、「学校へ楽しく通っている」の項目では、肯定的回答意見が保護者90%、生徒94%、「私は、お互いの人権を大切にしようとする気持ちや態度が身についている」の項目では、肯定的回答意見が保護者、生徒ともに92%とどちらの項目においても高い数値であった。
- ⑤ 実態の解明・解決に向けての取組及びその後の経過については、週1回実施の補導係会、月1回実施の生徒指導対策委員会（いじめ対策委員会を含む）で検証する時間を確保し、学校全体で共有できるようにしている。また、それぞれの事案について、保護者に対しては、家庭訪問等でいじめを受けた生徒及びその保護者に調査に係る事実関係等その他の必要な情報を丁寧かつ適切に提供し、理解と協力を求めるようにしている。
- ⑥ 先日の学校運営協議会三役会において、年間を通じての状況について説明をし、関係者のご意見をうかがい、地域で子どもを育てるという視点で協議を進めることができた。

自己評価

分析（成果と課題）、重点目標の達成状況、次年度の課題

- 学校評価アンケート結果より、保護者・生徒ともに、学校行事もほぼコロナ前のように行うことができた結果、生活に対する満足度が昨年度と同様に高い数値を示している。
- 学校評価後期生徒アンケートの「先生や友達の意見をよく聞いて学習している」の項目では、肯定的回答意見が90%と非常に高い数値であった。この結果からも、他者を認め、共生・協働の意識が高いことが認められる。
- 学校評価後期生徒アンケートの「学校に楽しく通っている」、「お互いの人権を大切にし、人のいやがることをしたり、悪口を言ったりしていない」、「正しい言葉づかいや行動を心がけている」の項目について、コロナ前とは形を変えて実施になったが、学校行事や地域行事での様々な世代や国籍の人との交流が、人権問題や人権感覚の気づきにつながっている。また、その活動の中で人権意識をより高め、日々の言動に反映している生徒の割合が増えていることがアンケート結果や日々の学校生活に現れている。「自分には良いところがあると思う」の項目では、肯定的回答意見が84%と昨年度に比べると9%と高くなっています、また全体的にも高い数値であった。これは、自己肯定感・自己有用感につながる思いや、自己実現を可能にする力を身に付ける子ども、人権という普遍的文化の担い手となる子どもの育成につながる。

（課題）

- 例年の課題ですが、卒業後に地域外へ出ていくことへの不安や弱さを感じる生徒の実態がある。
- ここ最近の懸案であるインターネット（スマホなど）等SNSによる人間関係のトラブルによる人権侵害やいじめ等が見えにくく、深刻化してしまってからの発覚・対処になってしまい場合がある。また、それに関する生徒間トラブルが発生した。対応の仕方によっては、不登校等、深刻化・長期化することが懸念される。

	<p>分析を踏まえた取組の改善</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「いじめ」問題を単なる生徒指導として捉え、対処療法的な問題解決で終わらせず、すべての生徒への継続的な指導や支援を組織的に行う。 ・クラマネや学校評価生徒アンケート結果や教育相談等だけでなく、日頃の見取りをしっかりとしていくことにより、的確に分析、迅速に対応し、いじめ対策委員会を中心に短期間でのPDCAサイクルを機能させる。 ・指導の方向性については、管理職・生徒指導部・学年主任等を含めたいじめ対策委員会で検討して考えていく。複数の教員で相談することで、多様な視点から状況を把握して適切な指導を行う。 ・スクールカウンセラー等を活用し、関係生徒の心のケアに当たる。
学校 関係 者評 価	<p>学校関係者による意見・支援策</p> <ul style="list-style-type: none"> ・地域でも登下校等の子どもの様子に気をつけて、気軽に学校と連携できるようにしていきたい。 ・保護者も、子どものことについて相談できる相手が学校だけしかないというケースが増えていくと思われる。特にマンション等の建設が多く、地域のコミュニティが弱くなっている。目に見えない部分での子どもの安心安全に対しては、危惧する部分がある。 ・自分の悩みや困りを打ち明けることができず、一人で悩み、苦しんでいる子どもがいないか、学校でも早い段階で、子どものSOSを見落とすことがないように、しっかり見てもらいたい。 ・地域には、学校でいじめがあることが全く見てこないのが現実。一方で、いじめの話を聞くと、話だけで状況を思い描いてしまい、振り回されることがある。